

総務文教消防委員会会議録（令和7年1月10日）

出席委員 大浦委員長 水橋副委員長 吉森委員 高川委員 青山委員 岩城委員 古沢委員

欠席委員 なし

説明のため出席した者 水野市長 柿沢副市長 上田教育長 石川総務部長
上田教育委員会事務局長 長崎財政課長 牧田子育て
応援課長

職務のため出席した事務局職員 石井局長 当銘係長

午前10時22分開会

大浦委員長 ただいまから、令和7年第1回臨時会総務文教消防委員会に付託された案件を審査するため、本日の委員会を開催いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付してあるとおりです。

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

吉森真人委員、古沢利之委員にお願いいたします。

日程第2、付託案件の審査に入ります。

議案第1号 令和6年度滑川市一般会計補正予算（第6号）を議題といたします。

議案第1号につきましては、全体委員会で説明を受けているため、当委員会での説明はしないことといたしますが、当局から追加で説明する事項はありますか。

石川総務部長 ございません。

大浦委員長 ないようですので、これより付託案件に対する質疑に入ります。

質疑のある委員、追加で説明を求めたい委員は、挙手の上、発言願います。

青山委員 1つしかないのでも聞かせてもらいたいんですけども、臨時会ということで、こういった地方創生交付金の臨時的な特別措置が出たときに、似たような事業を各年やられているだろうと思っておりまして、今回188万1,000円という金額がついておりまして、前年度、前々年度と同じような形の補助で実績額が出ていると思うので教えていただければ。

牧田子育て応援課長 昨年度の実績額につきましては、副食費のほうで352万7,125円、それから光熱費のほうで、2回ございまして、337万500円、2回目の補助が182万

3,200円となっております。

青山委員 そうしますと、結局、国の予算が決められているので、その都度使える金額が決まってしまうというところだと思うんですけども、今回この金額になったというか、配分していったらそうなったという位置づけでいいんですかね。要は、国庫補助金のひもつきの金額として割り振れるところに濃淡をつけられたのか、それとも私立保育所等運営事業費、子どもに関わる金額でこれだけ使ってくれというような位置づけなのか、その辺ちょっと聞かせてもらえれば。

牧田子育て応援課長 補助につきましては県の補助を参考にしておりまして、昨年度も同様でございますけれども、県の補助の基準単価と同額として積算したものでございます。

青山委員 これって本来なら、ちょっと仕組みを完璧に理解できていないんですけども、地方創生交付金がどんと来たときに、国庫補助金の中で県を通ってきて、これを使ってほしいだのというのが出てくるとして今の金額だと思っているんですけども、私は何を聞きたいかといったら、例えば、市長でも事務局でもいいんですけども、県に逆らってという言い方はちょっとおかしいかな。要は、市の単独で濃淡をつけられるのかという話を聞かせてほしいんです。

長崎財政課長 今、こちらの物価高騰支援はいろいろあるかと思うんですけども、推奨メニュー分と低所得世帯支給分ということで、交付金のほうが2種類含まれております。

今回の補正の中で、物価高騰重点支援給付金給付費という非課税世帯に3万円を給付する事業と子ども加算、定額減税し切れなかった方への給付という、この分については国の10分の10の補助でございます。残りの事業については、推奨メニュー分ということで交付金の額が示されておりまして、こちらについては、今おっしゃられますように市のほうでの裁量になりますので、先ほど言われた濃淡がつけられるものでございます。

今回たまたま、こういった各種事業、社会福祉事業の補助金については、従来から県の補助の基準を参考にして滑川市として助成してきているというものでございまして、それ以上に補助したいというようなものであれば、別に誰かに何か縛られるものではございません。市のほうで判断できるものでございます。

青山委員 推奨のほうの補助に関しては市で濃淡つけられる中で、今まではそうだった

たはずで、これからはどうなのかちょっと分からないんですけども、今回に限ってもそうですけれども、例えば市長が、実際この金額になりますという話だとかというのが来たときに、別に言われていないということですよ、そうすると。要はここに色をつけてくれみたいなのは、今のところは。

水野市長 ありがとうございます。

そういう色をつけてくれというか、これ、先ほど言った低所得世帯の支援のほうと推奨事業メニュー２つで組んできているわけですけど、ほかの自治体の例で言いますと、砺波なんかは生活支援３万円にまだプラスしてオンしたと。私のところはそれはやっていないんです。その部分を推奨事業メニューで生活者支援として全世帯に商品券を配ると。これが今回の推奨事業の中での目玉というか、それを今例年どおりに打ち出したのが市の特徴かなと。それ以外に、今度は事業者支援、生活者支援じゃなくて推奨事業メニューの事業者支援として各事業者に物価高騰燃料費高騰分を割り振ったと言ったらあれですけど、頂いた国からの交付金を生活者支援商品券に回して、残りの部分を事業者支援に割り振って、その基準は県の基準を使いながらやって、市の単独の持ち出しはこれだけで、国からの交付金はこれだけでということで、今ほど言った形で臨時議会で予算計上させてもらったところです。

青山委員 これ以上言うと総務文教消防委員会からずれていく話になっていくのでこの辺にしておきますけれども、なぜこのことを聞いたかという、各市町村がそれこそ、見させてもらおうと、ちょっと濃淡がついているんだけれども、滑川市は結構平均的なものばかりかなと思ってずっと見ていたわけです。

なので今再確認で聞いたわけで、何を言いたいかというと、やっぱり市長がやりたいことというのはそれぞれマニフェストにも書いてあって、来年度になればまた書かれるんだろうと思っているんですけども、そういったものに対して、国からの創生交付金があるのにもかかわらず、県の基準でそのままずっと出しっ放しというのは私、これもいかがかと思うので、その辺も含めて今聞いたということで、最後また市長に聞けばいいですか。その辺はどう考えておられるのか。

水野市長 今おっしゃるとおりで、やりたいことを少しずつできる範囲でやっていくつもりなので、そこにはもちろん、交付金等使えるお金は国から県から頂きながら、やりたいことを地道に少しずつ、ぶれずに、真っすぐに、一步ずつやっていくつもりですので、またよろしくお願いします。

大浦委員長 ほか、ございますか。

古沢委員 確認の意味で。過去にも同じようなものがあって、さっき実績も答えていただきましたけども、今度の188万1,000円、私立保育園は12だったけ、13だったけ。

牧田子育て応援課長 幼稚園を含めまして13園です。

古沢委員 ですね。13園だと思うんですが、それぞれに188万円を割る格好になると思うんですけどね。これ、それぞれの園に対してどれだけ支援するかというのは、何か基準があるんですか。例えば児童数とか。

牧田子育て応援課長 在籍児童数に基準単価を掛けますので、保育所、認定こども園につきましては、各園の在籍児童数に1,600円が基準単価となっておりますので、掛けた金額で補助していきます。

また、幼稚園につきましては、基準単価自体がちょっと低くて540円というふうになっておりますが、恐らく教育時間が短いということもあると思うんですが、そういったことで、そこに在籍児童数を掛けた金額を補助することとしております。

古沢委員 これは何か示されてきているものなんですか。

牧田子育て応援課長 昨年度もなんですが、今年度も県の基準単価と同額として算出したものでございます。

古沢委員 それならそれでしようがないと言ったらしようがないのかもしれませんが、園児に比例して必要な部分もあると思うんですけど、園児の多少にかかわらずと言うと極端かもしれないけど、ある意味固定部分というか、そういったものもあるのではないかなと思うんですけど、そういったことについて、支援を受けられる側からは何か要望みたいなものはないものなんですか。しようがないわねということとで終わってってしまうのかなと。

牧田子育て応援課長 当課のほうに直接的に要望というものは今のところございません。

古沢委員 もらえるから、しようがないわねと。そんな気がちょっとしたんですよ。終わります。

高川委員 補足説明で、上限が27万4,000円と言われたと思うんですけど、上限に達してしまっている園は幾つかあるんですか。

牧田子育て応援課長 やっぱり規模の大きいところ、1園だけ該当するところがございます。

高川委員 そしたら、そのオーバーした分、予算化するとどれぐらいになったか。

牧田子育て応援課長 1万5,600円の差額がございます。

高川委員 それくらいなら何とかならんかと思ってちょっと聞いてみました。

大浦委員長 県補助金、児童数に対して基準単価を掛けるということですけど、この説明を聞いていて思ったのが、どれだけ私立保育園が物価高騰で疲弊しているか分からない状況の中でこの補正予算額を決められたかというのが分からないんです。

先ほど担当課には保育園からそういった要望が出ていないと言われたんですね。だとすれば、例えばほかの事業所と一緒に、物価高騰に対して、私立保育園は社会情勢的に仕方がないと思って物価高騰に対してやっておられるということも考えられます。

だけでも、そういった要望はないけども、この補正額を出して支援していこうと考えられた理由についてお聞かせ願えますか。

牧田子育て応援課長 やはり物価は日々上がっておりますので、そういった状況の中で、園のほうへは公定価格等で措置されている部分もありますけれども、その公定価格も年々上がったりしていっているところがございますが、やはりそういった園の経営状況を少しでも補填していくというような考えで提出させていただいております。

大浦委員長 疲弊しているのは当然保育園だけじゃないんですよね。だとしたら、これは別に反対しているわけではないんですけども、多分当局が、私立保育園がどれだけ物価高騰で疲弊しているかをまず把握されてないんじゃないかなと思うんです。

例えばほかの補正予算、先ほど説明の中では、前年度実績に対して同年の差額分を支援するという補正額もあるんですよね。だとしたら、児童に対して補助金単価を掛けるという方法と、各私立保育園の前年度実績に対して差額分という補正額の決め方の2択あったと思うんです。

今回、差額分ではなくて、県の補助金単価を児童数に掛けたのが、例えばほかの自治体がそうやっているから同じなのか、それとも滑川市はその差額分よりもこちらのほうが支援対象として広がるからこれを選んだという、精査したのであったらどうやって決定されたのかなと思います。

牧田子育て応援課長 県の補助単価も1,500円から1,600円に上がっている、520円から540円に上がっているという状況も鑑みまして、この県の補助単価ということにさせ

ていただきました。

大浦委員長 私、市長の定例記者会見の中で、来年度の予算をスクラップ・アンド・ビルドして徹底的な見直しを図るというふうに出ていたので、こういったことも継続事業で、多分ずっと児童数に基準単価を掛けて出されてきているんですよね。

なので、そういった園の状況であったりも踏まえて新年度予算に生かしていただきたいので、こういった質問をさせていただきました。

水野市長 ご指摘ありがとうございます。

本当に今、保育所だけじゃなくて事業者も、それぞれが物価高騰に関して、疲弊という言い方がいいのか、そういった形で、皆さん事業者の方もこの先どうなるのかと、そういう不安を持っておられる事業者、ここだけじゃない、多数おられると思います。

それこそやっぱり、その人たちと対話をしながら、データの見える化じゃないですけども、それぞれ市の職員と事業者の方が対話ができる環境もつくりながら、どういった支援をすればいいのか、そのあたりも含めてどんどん、もっと突っ込んだ議論というか対話が必要かなというように感じていまして、今、大浦委員長からスクラップ・アンド・ビルドという言葉も出てきましたけども、それに向けて、新年度、また予算編成に取り組んでいければなというふうに考えています。

大浦委員長 ありがとうございます。

ほか、ございますか。

(質疑する者なし)

大浦委員長 ないようですので、質疑を終結いたします。

これより、付託議案に対する討論を行います。

討論を希望される委員は、挙手の上、発言願います。

(討論する者なし)

大浦委員長 なしでよろしいですか。

これにて討論を終結いたします。

それでは、これより挙手により採決を行います。

議案第1号 令和6年度滑川市一般会計補正予算（第6号）

第1表 歳入 所管部分

歳出 第3款 民生費（但し、子育て応援課所管分）

本議案について、賛成の委員の挙手をお願いいたします。

〔賛成者挙手〕

大浦委員長 賛成全員。よって、議案第1号につきましては、原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

午前10時41分議決

大浦委員長 以上で付託案件の審査は終わりました。

また、委員からのその他につきましては、次回の委員会協議会等においてお願いいたします。

これにて令和7年第1回臨時会総務文教消防委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午前10時42分閉会